

# 食事支援の基礎を学ぶ



## 考える看護師の育成シリーズ：初回『食事支援について』

医師：「この患者さんって嚥下機能ってどのくらいなの？」

看護師：自信をもって「『RSST』も『MWST』もクリアしています。

あ 頸部聴診でも雑音がないのでいつでも食事開始できます！！」

を目指して、①嚥下評価→②食事の選択→③食事介助を学びました。



講師 **中嶋 嵩博**  
言語聴覚士  
日本摂食嚥下リハビリテ-ション学会認定士



講師 **渡邊 淑子**  
副看護師長  
摂食嚥下障害看護認定  
看護師教育課程終了



触れて、飲み込みを確認中

反復唾液嚥下テスト(RSST)



改訂水飲みテスト (MWST)



聴診器で嚥下音を聴いています

頸部聴診

**実践！！**

- ❖反復唾液嚥下テスト(RSST)  
30秒間、唾液を飲み込んでもらう。  
→嚥下機能の評価。
- ❖改訂水飲みテスト(MWST)  
冷水3mlを口腔底に入れ、飲み込んでもらう。  
→嚥下、むせ、呼吸の変化を評価
- ❖頸部聴診(嚥下音を聞く)  
頸部に聴診器を当て、飲み込んだ時の嚥下音を聞く。  
→誤嚥の有無を判断。

## 実践！！

### ✿とろみを作ってみよう

誤嚥のリスクのある患者には中間とろみが最適！

### ✿かっぱえびせんで唇と舌の動きを確認してみよう

「食べる」過程では唇、舌、歯の役割は重要！舌は、左右、上下、回転して食べ物を運ぶ

### ✿食事時の正しい姿勢を体験しよう

首の傾斜、体幹の位置、四肢の支えが適切になっているかが重要！

中間とろみは、  
とろっと～～  
こういう感じが  
BEST



かっぱえびせん、  
エンゲーリードを  
食べて唇・舌・歯  
の動きを確認中



車いすでの正しい  
姿勢は、しっかり  
足を床につけるこ  
と

食べやすい姿勢は  
ベッドアップ 30～45度

## ～ 学びの声 ～

安全に食事支援を行うために、自ら『食べる』を体験することで患者さんの目線で考えることができました。また安楽に食べられる工夫も支援する私達が考えていかなければならないと感じました。『食べる』という当たり前の日常を失わせないように、食事支援を通して、多職種で協働していくことの必要性を理解しました。この学びを実践で活かして患者さんの『食べる』を支援していきたいと思えます。

